

平成28年度第1回幌延町総合教育会議 議事録

1 日時 平成28年10月25日(火) 午前10時30分～午後0時

2 場所 幌延町役場庁舎2階 大会議室

3 出席者

(構成員)

町長 野々村 仁

教育長 木澤 瑞浩

教育委員 番坂 啓介

教育委員 尾内 幸男

教育委員 澤谷 敦美

教育委員 堀 英夫

(事務局)

総務財政課長 飯田 忠彦 教育次長 伊藤 一男

総務係長 梶 淳 総務学校主幹 田村 浩希

4 内容

○町長

平成28年度第1回 幌延町総合教育会議の開会にあたり、一言ご挨拶を申し上げます。

本日はお忙しい中、総合教育会議にお集まりいただき、誠にありがとうございます。

また、委員の皆さまには、日頃から教育行政をはじめ、本町のまちづくりにご尽力を賜り、この場をお借りして厚くお礼を申し上げます。

さて、本会議は、平成27年4月1日に改正された「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の柱の一つとして、教育委員会の皆様と自治体の長が地域の教育の課題やあるべき姿を共有し、効果的な教育を推進することを目的として開催しており、昨年度は教育の目標や施策の根本的な方針を定めた幌延町教育大綱を策定したところです。

また、法改正を受け、教育委員長と教育長を一本化した新教育長につきましては、9月定例会において議会の同意をいただき、10月1日付けで木澤教育長を任命しました。

新体制となった今後においても、町部局と教育委員のみなさまとともに、教育政策について協議・調整を行い、幌延町の教育の方向性を共有してまいりたいと考えておりますので、委員の皆様におかれましては、幅広い視点か

ら忌憚のないご意見をいただきますようお願い申し上げまして、私からの挨拶とさせていただきます。

本日はよろしく願いいたします。

議題の1点目「いじめ問題に対する各学校の取り組み状況について」事務局から説明願います。

○事務局

(資料に基づき「平成28年度いじめの問題の実態把握及びその対応調査について」について説明)

○町長

ただいま事務局から説明がありました件についてご意見・ご質問等がありますでしょうか。

○教育長

本調査は、道教委で6～7年前に始まったアンケート調査です。

○委員

(各委員間でいじめについて協議、各種意見提案)

○町長

色々のご意見を伺いましたが、まちとしてどういう体制を作っていくかは、今後教育長とも話をしていくが、今後は地域としてどのようないじめ問題全般の経過を伺っていききたい、ということで議題の1点目は報告済みとしてよろしいですか。

○委員

異議なし。

○町長

次に、議題の2点目「平成28年度全国学力・学習状況調査の結果について」事務局から説明願います。

○事務局

(資料に基づき「平成28年度全国学力・学習状況調査の結果について」説明)

○町長

ただいま事務局から説明がありました件についてご意見・ご質問等がありますでしょうか。

○教育長

事務局の説明で平成28年度の本町と全道・全国との比較がありましたが、該当児童は現在中学3年生であり、平成25年度(当該児童が小学6年生の

とき)の結果はそれぞれ下回っている数字でしたが、本年度は全てにおいて上回っています。これは小学校のときに悪くて、中学校に入ってから良くなったと言えるかもしれませんが、中学校で取り組んだ結果が表れていると言えます。特に幌延中学校は平成24年度から「プロジェクト」ということで、保護者の協力も得ながらやっている家庭学習の成果が出てきたのかなと感じています。ただし、出題される問題は毎年違うので、一概に向上したとは言いがたい部分もありますが、傾向としては中学校に入ってから伸びたという見方もできます。

初山別村の「つなげる」で、地域おこし協力隊が塾的なものを始めたというのがありました。幌延町でも親の願いや子の学力を伸ばすということを考えたときに、高校や塾がない町で今後どのように学力を保証していく方法がないかと思ったときに新聞報道として出ていたので、当町としても公立の塾のようなもので何かできないかと思いました。学校は、放課後学習を月に1回行うよう言われています。幌延小学校でも学力が定着しない子を特に重点的にということで始めましたが、スケジュール的に月1回くらいしかできないということで、今後どのように進めていけばよいか色々と話しています。やはり進学・進路を考えると、幌延から飛び立つときに、どれくらいの学力・自信をつけて受験をさせたい、高校に入ってから自信を持って学業に勤しんでほしい気持ちがあって、ICTというものも、その一つの方法であると思いました。その辺のことも今後まちとして考えていきたいという個人的な考えは強くあります。

○ 町長

今は、タブレットを取り入れて、先生方・学校で、どう利用するかという勉強をしているところです。

教育長も言いましたが、私自身、個人的にタブレットを進めようと考えたことも、塾・塾をやる人材がないまちで、それらを使いながら、都会や進研ゼミなど教材利用する会社でもタブレットを利用する方法に変わっているというのがあります。学生が主体となってタブレットを利用して塾をやっているというのがあるって、苦手な教科をそのような塾と結びながら、どう構築をしていくかということが、この地域での最終形だと思っています。少人数のところでも、普通は塾を構成するとなると何人かのまとまりがないと収入にならないので、塾を運営できませんが、タブレット等を活用することで可能なこともあるだろうと。まず、利用価値としては、そういうことができないかという模索をこの1～2年で考えながら、最終的には、個別でタブレッ

トを利用する塾のようなところができる、そういう可能性を秘めていると思うので、早めにスタートしたいと考えています。

初山別も教育・防災関係面の二局面でタブレットを入れたと聞いていますが、NPO や協力隊などの良い土台が揃ってできたという側面もあると思います。教育長が言った通り、その後どうしていくかというのは大きな課題の一つであると思いますので、今年導入したタブレットの検証は、それらの部分にも可能性を見出したいという想いをもって、これを進めていきたいと考えています。

(各委員間で学力向上に向けた取組について協議、各種意見提案)

○町長

タブレットの導入は今年度実施していますが、学力向上の取組の一環として、塾がないまちでのタブレットを活用した遠隔教育などを今後検討していければと思います。

では、議題の2点目は報告済みとしてよろしいでしょうか。

○委員

異議なし。

○町長

次に3点目の「その他」に入ります。

日頃委員さんが、町の教育行政に対して、思っていることなどがありましたら、ご意見を聞かせていただきたいと思います。

○委員

問寒別の小中学校の生徒数が非常に少なくなってきており、来年度になれば中学校の生徒数が一人という状況です。児童生徒が少なく、生徒も先生方も非常に苦慮されるのかなあというところで、今後、町長として戦略のようなものはないのかと思っているのですが、どうでしょうか。

○町長

おっしゃる通り、一気に生徒数が減少しました。生徒数が三十数名くらいの学校になれば、という期待感を持っているのですが。ICT、タブレットを使用するのもその解決策の一つでした。本来であれば、問寒別からこちらに連れてきてもらえばいいのかもしれませんが。しかし、問寒別でこの次の世代に中学生になる子や、問寒市街地から十数キロ離れた奥に子どもが生まれ、その子が中学生になったときに、問寒別から幌延までここまで来るのには30キロ、一番奥から来るとなると約45キロの通学距離になってしまいます。その通学距離をスクールバスで連れてくること自体、部活などいろいろなこ

とを試してみたいという子供たちや親御さんにとって、良いことか悪いことか話を進めていかなければならないと感じています。私自身は、1時間かからないのであれば子どもたちにとって通学可能であると思っています。そこが大きなネックですから、ICTを使って、どうにかして幌延中学校と同じような授業、教育課程となるよう調整しようというのが、ICTに託されている役割の一つでもあることを認識していただければと思っています。

一人であろうとも、ワンツーマンで担ってくれる先生がいればできることはあります。ただ、大人数のところに入るという体験をしなくてはならないですから、毎日難しいかもしれませんが、定期的と一緒に大勢の子どもたちと学ぶことも必要です。普段誰とも話さない田舎の人間が大きな町の高校に入ったときに、何十人何百人というところにポツンと入っていく抵抗感によく分かるので、そういったことをしたくはないという気持ちもあります。毎日とは言わずとも、定期的には大人数と一緒に授業も体験しなければなりません。生徒数が一人でも、学力の低下を小さくしようというのがICTに込められた期待の一つであると思っていますし。既にテストしてもらっていますが、テレビ会議システムも同様に双方向でやり取りができ、問寒別の子どもたちも幌延の子どもたちも互いの名前が言える関係になって、そのような関係を構築していけば、それほど無理ではないのではと思っています。ですから、これだけ大きな投資をしながらも進めていきたい、もう少し近場であれば、一緒になって回らせてあげたいという気持ちは私も変わりません。

ただ、いかんせん距離がありすぎ、スクールバスで送迎する側にとっても45キロ往復して毎日90キロ走行することが、夏場はまだしも冬場はどうするかということも考えると、どうしても。親御さん、委員会、教育長とも相談をしながら進めていかなければならないことですが、どうしても親御さんが望むのであれば、叶えてあげたいと感じています。ただ、次に中学生になる子供たちが7～8人いたり、全体生徒数が35～36人になったりしたときに、一回休学にするとなかなか元には戻せないで、休学にできないという痛いところがあります。他には吸収している学校等もありますが依然戻せていませんし、先生の配置もできません。

○委員

今、町長が言われたように、少ない子どもだけで1年間授業を受けなければいけないのではなく、たまには大勢の中に入って直接肌と肌を感じながら授業を受ける経験も必要だと思います。ですから、毎日は無理でも例えば月に一回二回、問寒別から幌延に出向いて一緒に授業を受けたり、テレビ電話

やタブレットを利用したりするような中で、経験させてあげたい、そういう取組をぜひ進めてほしいと思っています。地域的にも学校をなくすのは難しいと思うので、生徒数が一人になっても、学校を残すのが心情ではないかと思います。今は非常に厳しい状況ですが、もう何年かすれば生徒数が増えるので、もう少しそういった授業が受けられると思います。町長もおっしゃっていましたが、田舎の学校から大きな学校行くと大きなギャップを感じるので、それを少しでも解消してあげたいと思います。

○町長

少しずつそういった取組をしています。例えば、認定こども園が問寒別へき地保育所に月何回か行き、子育て支援センターに関わる人たちが利用できるようにしています。ICTを使って、人的な対面ができるような体制を作り、それに慣れるよう、もっと進めなければならないと思います。ただ、後の事を考えるとその体制に頼りすぎるのはつらいと考えており、親御さんたちとお話をしながら、教育長を中心に、検討を進めていきたいと思っています。小さい子のためにハンデの無い教育をしなくてはならないということが今回の一貫したテーマであり、今後どのようにICTを活用して、どこまで移動を最小限にできるか、多くのテストを重ね、全体的に考えていければと思っています。

私が就任した時の、広聴会の中で「問寒別中学校ではなく、幌延中学校とってくれば同じことです」と言ってしまいましたが、そんな簡単な話ではないと現場の人は良く分かっています。今後、現場、先生方とも協議しながら、そういう体制で臨みたいと思っています。

○町長

それではよろしいでしょうか。

○事務局

次回の会議につきましては、また別途案件調整の上、今回同様ご案内させていただきますので、よろしくお願いいたします。

○町長

以上をもちまして、平成28年度第1回幌延町総合教育会議を終了いたします。